

はじめに

I 3.11後に彼らが表現したもの

- 2 二つの「NO NUKES」に込められた思い —震災によって奈良美智が見出したもの—
那須千浩
- 1 0 園子温『希望の国』が描き出す「多数の声」と非当事者の不在
中家まどか
- 1 6 ロックミュージシャンと震災 —彼らの発言に見る「志向」と世代差—
林喜子
- 2 6 文学と震災 —高橋源一郎『恋する原発』と言葉の力—
石野日香里
- 3 4 スタジオジブリの脱原発論と宮崎駿の脱イデオロギー論
中場愛
- 4 1 漫画が教えてくれる、今できること
—しりあがり寿の漫画を読んで「とりあえず前を見る」—
小田優佳

II 3.11後の日常空間を生きる人々

- 5 0 アニメによる人とのつながりの形成 —聖地巡礼を通して—
浜田優里
- 5 6 リアリティの喪失が震災後にもたらしたもの
谷口ひとみ
- 6 2 日常生活という守るべきもの —反原発デモに参加する人々の心性—
嵯峨理紗

III 文化と市民、文化と行政をめぐる

- 7 0 ルミナリエとアート・エイド
—阪神・淡路大震災後における行政と市民の文化への関わり—
土井七海
- 7 6 文化の商業主義批判をこえて —奈良県の文化行政の事例から—
加藤袖衣
- 8 3 「つながり」をいかした文化継承活動 —京田辺音楽連盟の事例から—
鈴木りほ

IV 3.11後のメディアと娯楽

災害時とラジオ放送 ―非日常時における“私のための”メディア―	松本麻野	92
3.11後の視聴者がテレビCMに求めたもの	太田成美	99
「脱原発」を「ネタ」にする芸能人	瀧本結	105
「非常」時における非日常的娯楽 ―震災後の東京ディズニーランドとプロ野球―	小池真央	113

V FUKUSHIMAの来し方と行く末

いわき「文化」の系譜学 ―「炭鉱文化」の正典化と「原発文化」の挫折―	稲垣綾	122
福島復興の象徴としてのフラガール ―映画『フラガール』がもたらしたものは―	小幡祥子	134
「福島のアスリート」の空洞化 ―アスリートの「福島/震災」語りから―	山城才子	141
放射能を克服する村へ ―飯館村菅野村長の言説にみる村のイメージの転換―	吉村未優	147

付録 2012年度「身体文化学演習」の記録	鈴木康史	153
授業記録 資料編		156
編集後記		167